

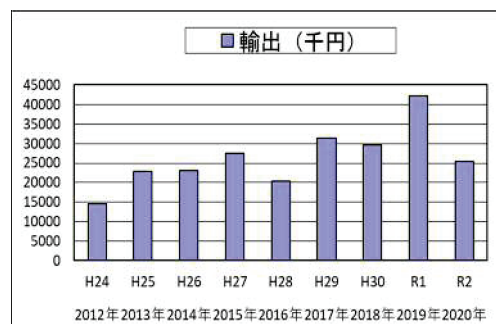
輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：株式会社かぐらの里、品目：ゆず加工品

1. 輸出における現状と課題

当社は20年ほど前から、ゆず果汁を中心に北米輸出を開始した。現在は欧州を中心に十数カ国へ輸出している。ゆずの香りは諸外国での評価が高まり輸出量、輸出額を順調に伸ばしていた。昨今、ゆず皮原料の引き合いが増えているが、当地域は標高300～700mの山間部にゆず園が点在しており、栽培面積に限られている等、早々の収穫量倍増は難しいため、他社・他産地との差別化が必要と考え、有機栽培に取り組んでいる。

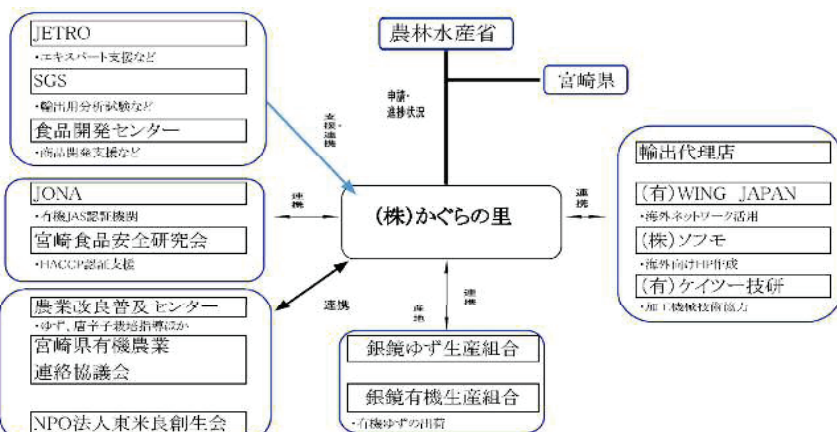
昨年コロナ感染が世界中に広がったことで、ゆず加工品の輸出は激減。飲食店向けの需要は当分の間厳しいことが想定される。今後、需要が高まるとみられる越境ECなどへの取り組みが必要。



2. 輸出事業計画の取組内容

海外のハイエンドユーザー向けや、有機緑茶に添加するフレーバーとしての有機ゆずをベースとした加工品（粉末など）の需要増が見込まれるため、有機ゆずの生産面積拡大及び栽培技術の向上による収穫量増を図る。生産面積拡大のため「有機生産組合」を結成し、自社園を含め、慣行栽培から有機栽培への転換を進める。輸出に向けての食品衛生環境を向上させるため、加工場のFSSC22000認定取得を目指す。また、加工場の生産体制を見直し、作業効率アップのため、加工機械の改良をメーカーと共同で進め、さらなる省力化と製品管理システムの構築を見据え検討する。コロナの時代の海外展開は、現地プロモーションも難しいため、既存の海外留学ネットワークを持つ県内民間企業と業務提携をむすび、人と人が結び耕す市場開拓をコンセプトに意欲ある留学生などを「銀鏡ゆず大使」に任命し、現地市場調査や情報収集・コネクション確立に向けて活動する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



※(株)かぐらの里が当該体制の中核となり、宮崎県やJETRO、輸出代理店等と連携し、輸出先国のニーズ等を把握し、課題と対応を整理。県食品開発センター等の協力を得ながら、商品作りを進める。また、原料の安定確保のため、県農業改良普及センターと役割分担のもと、ゆず生産組合の生産性向上を図る。こうした商品・産地づくりに基づく輸出促進の取組に対して、関係機関から助言・指導を得ながら、改善を図る体制とする。

4. 輸出目標額

これまでの輸出実績及び本取り組み後に目指す売上げ目標は下表の通りである。コロナウィルスの感染拡大に影響しない輸出取り組みを目指し、ニッチな市場の開拓に当社の全力を傾注するとともに、これまでの輸出先と緊密な連携を図り、当該目標の達成を目指す。

【ゆず加工品輸出】

	現状(令和元年度)	目標年(令和5年度)
輸出額(千円)	40,000	60,000
輸出量(kg)	15,000	22,000
輸出先国	米国、EU、台湾等 15カ国	米国、EU、台湾等 15カ国
生産量(kg)	150,000	230,000